プロドライバーへの道

非常時の対応マニュアル

西濃運輸株式会社

Ver1.1

【交通事故】

救命措置（心肺蘇生とAED）

心肺蘇生とは、止まってしまった心臓と呼吸の動きを助ける方法で「胸骨圧迫」と「人口呼吸」とある

AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器

運転マニュアル

初動措置

●交通事故①

①事故の続発を防ぐ為、他の交通の妨げにならないような安全な場所（路肩・空地等）に車を止め、エンジンを切る。

②負傷者がいる場合は、救護をすること

＜医師救急車が到着するまでの間＞

負傷者に出血が認められる場合は、直接圧迫止血法という方法で止血を行います。

清潔なハンカチやガーゼで患部を圧迫して止血しますが、感染症の恐れがあるため、直接血に触れることは避けた方が良い。
車にグローブやビニール手袋を常備しておくこと

（頭部に傷を受けているときは、むやみに負傷者を動かさないようにする。）

救護・必要な措置、別紙参照

●交通事故②

③救急、警察に連絡し指示を受けること

発生場所、負傷者の数、負傷者の程度、物の損壊の程度、事故車両の積載物などを報告する。

④道路における危険を防止する等、必要な措置を講じる。

二次災害を防ぐため、車両を安全な場所に移動させ、停止表示器材や発炎 筒で後続車に知らせる。

⑤非常電話による道路管理者への一報（道路管制室に繋がる）（非常電話がない場合は#9910）

⑥「事故速報ダイヤル（0800－1001－250）」及び関係先（店所等）への連絡（加害・被害に関係なく）

非常時の対応マニュアル

心肺蘇生

交通事故

→ 応急手当 → 救命措置 →

→ 呼吸や心臓が止まった時 →

- → **心肺蘇生**
  （胸骨圧迫と人口呼吸※）
- → **AEDの使用**

※負傷者の顔面や口から出血している場合や、口と口を直接接触させて人口呼吸を行うことがためらわれる場合は、人口呼吸を省略し胸骨圧迫のみを続ける。

非常時の対応マニュアル

心肺蘇生

救命処置の流れ（心肺蘇生とAEDの使用）

1 安全確認 ･･･周囲の安全を確認

↓

2 反応なし ･･･負傷者の反応（意識）を確認

大声で応援を呼ぶ

↓

3 119番・AED依頼
通信指令員の指導に従う

4･･･普段どおりの呼吸をしているか確認

↓

4 呼吸は？

普段どおりの呼吸あり → 様子をみながら
応援・救急隊を待つ

↓

呼吸なし
または死戦期呼吸※1

↓

※1わからないときは胸骨圧迫を開始する

非常時の対応マニュアル

心肺蘇生

5 ただちに胸骨圧迫を開始する
強く（約5cm）※2
速く（100～120回／分）
絶え間なく（中断を最小にする）

6 人口呼吸の技術と意思があれば
胸骨圧迫30回と
人工呼吸2回の組み合わせ

※2個人差はあるが加齢により骨が弱くなり胸骨圧迫時に肋骨が折れる場合があるが胸骨圧迫を続ける
小児は胸の厚さの約1/3

7 AED装着

心電図解析
電気ショックは必要か？

必要あり

【電気ショック】
ショック後ただちに
胸骨圧迫から再開※3

必要なし

ただちに
胸骨圧迫から
再開※3

※3強く・速く・絶え間なく胸骨圧迫をすること

8 救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に普段通りの呼吸や
目的のある仕草が認められるまで続ける

非常時の対応マニュアル

心肺蘇生

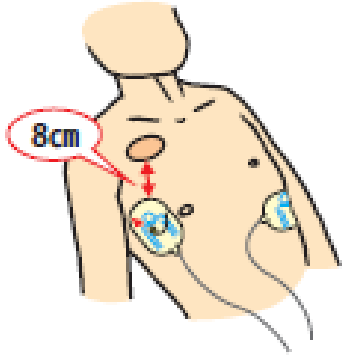
特殊な状況下でのAEDの使用について

●倒れている人の胸が濡れている時

電気が体の表面の水を伝わり流れてしまうので、AEDの効果が不十分になる。
乾いた布やタオルで胸を拭いてから、AEDのパッドを貼る。

●貼り薬がはってある場合

AEDのパッドを貼る場所に、貼り薬や湿布薬がある場合は、まずそれらをはがす。
もし、薬が残っていたら薬剤を拭きとり、パッドを貼る。
貼り薬の上からパッドを貼ると、電気ショックの効果が減少したり、やけどを起こす可能性がある。



●医療器具が埋め込まれている場合

皮膚の下に、心臓ペースメーカーや除細動器が埋め込まれていると、胸に硬い「こぶ」のような出っ張りが見られる。
パッドを貼る場所にこれがある場合、8cm以上離して貼る。

●胸毛が多い場合

胸毛が多いと、パッドが肌に密着せずにAEDの効果が減少したり、やけどの原因となる。
できるだけしっかりと密着するように貼り付ける。予備のパッドがあれば、最初のパッドを素早く胸毛ごとはがしてから、新しいパッドを貼り直すという方法もある。

非常時の対応マニュアル

心肺蘇生

「応急手当」と「救命処置」

①救助者は心停止でなかった場合の危害を恐れずに直ちに胸骨圧迫を開始する。

②胸骨圧迫の部位は胸骨の下半分とし、胸が約5cm沈むように圧迫する。

③胸骨圧迫のリズムを1分間当たり100～200回のテンポで行う…など、より質の高い胸骨圧迫が重要

【JRC蘇生ガイドライン2015】を踏まえた講習を受講すること